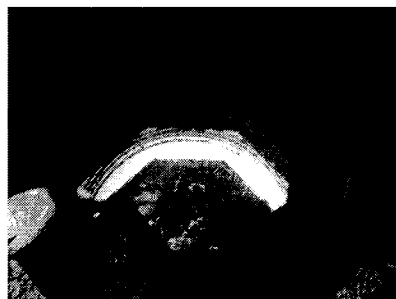


じきはらぎよくせい

## 直原 玉 青画伯の「雲竜図」

淡路島の南あわじ市にある滝川記念美術館を訪ねたときのことです。入口の扉を開けると、足元の御影石の中で泳ぐ水竜が目に飛び込んできました。御影石に映る陽の光は、まるでさざ波のようであり、その水竜は、足元下10メートルほどのところで、より一層いきいきと泳いでるようで、見ている側も深い井戸の中に引き込まれていくようでした。



実は、この水竜は、その御影石の真上にある天井に貼られた「雲竜図」なのです。そして、足元に見えたのは、この天井にある「雲竜図」が映ったものでした。水竜がこれほどいきいきと泳いでるように見えたのは、天井にある「雲竜図」がすばらしいものだからだというのは明らかです。そして、1階から見える「雲竜図」に見えた勢いや迫力は、2階へ上り、絵から数メートルにまで近づいたとき、さらに筆の勢いが加わり、ことさらに力強く感じられました。



この美術館の学芸員の方の説明によると、直径5メートルにもなるこの大きな水墨画は、この美術館の開館にあたって、米寿であった直原玉青（じきはらぎよくせい）画伯が描いたものだそうです。さらに、この大きさにもかかわらず、たった一晩で描きあげたと聞き、なお一層驚いたの

でした。

直原玉青画伯は、日本現代南画の第一人者ですが、画家として認められたのは27歳で、あまり早いとはいえません。けれども、平成17年（2005年）に101歳で亡くなる直前までの70余年もの間、創作意欲や自分の作品に対する熱意をもち、数多くの絵を描いてきました。その間描いてこられたのは、何より、画伯が「創作意欲」や「熱意」「感受性」を失うことなく持ち続けた意志の強さがあってこそそのものです。「雲竜図」の持つ勢いや迫力は、その創作意欲や熱意から描かれているのはもちろんのことですが、それと同時に、芸術家として認められるまでの間に、芸術家としての大切な技術だけではなく、「感受性」を養い、磨きつつ、自分の信じた道を決してあきらめずに画家として生きていく決意を強く持って、じっくりと力を蓄えていたからだと考えられるでしょう。

この画伯の生き方に触れてみると、実際に、目標とすることに到達するまでには、技術や知識以外にも少しずつ磨いていくべきものが、私たちの日常生活にもあると考えることができます。それは「感受性」ではないでしょうか。教育者である團田可六氏は「子

供は目で生きる。そして、子供の目が自然から人間の世界から切り取るものは、実に鋭く豊かであり、形なき物の形を見、声なき者の声をも聞く。」（出典「子供の目と耳」より原文のまま）と若者の瑞々しい感受性について述べていますが、磨かれた子どもの感受性からは、私たち大人が、時に驚くような視点に基づいた発言がされることもあります。道徳の時間では、そういった子どもたちの感受性を養い磨きながら、共に「よりよく生きていく」ためにはどうしたらいいのかを考えていきたいと思っています。

## ～2年生の授業より～ 「元さんと2通の手紙」

12月9日（木）、2年2組では、「元さんと2通の手紙」を学習しました。この授業は、本校の校内研修会の一環として、貝塚市教育委員会の川崎先生を講師としてお招きし、2年2組の担任である西浦先生によって行われました。

「元さんと2通の手紙」は、動物園を舞台にしたお話です。動物園には「1：小学生以下の子どもだけの入園はさせない。2：入園終了時刻以降の入園はさせない」という規則がありますが、動物園に勤める元さんは、入園終了時刻後に来た小さな弟を連れた女の子を動物園に入れてしまうのです。規則を破った元さんには2通の手紙が届きます。1通は子どもたちのお母さんからのお礼の手紙でしたが、もう1通は動物園からの解雇状でした。この2通の手紙をもとに、「ルールとは何か」「なぜこのルールが必要なのか」など、表面的なものではなく、ルールの裏側にあるものについても考える授業となりました。

以下は、「2通の手紙を見比べた元さんが何を考えたか」という質問に対しての生徒たちの意見と学習しての感想です。

### [意見]

- ・いくらお客さんに喜ばれても、きまりはきまりであることを実感させられた。
- ・社会は厳しいけど、人はやさしい。
- ・喜んでもらえるのもいいけど、やっぱり安全が大切。無責任な判断をしてしまった。
- ・自分のあの時の判断はよかったのか、ということ。
- ・無責任な判断で万が一事故にでもなっていたら大変だった。だから、今回、何もなくてよかった。
- ・自分は善意でしたことでも、動物園で働いている人としてルールは守らないといけないし、もし、けがしてても責任をとれない。

### [感想]

- ・少しの気の緩みが大きな落とし穴になることがわかりました。
- ・一人のちょっとした無責任な判断が、大変なことになるから、気をつけないといけないと思った。
- ・ちょっとくらい」と思ってやったことが、大きな事故につながることもあるから、気をつけないといけない。
- ・良いことをしてもそれがきまりに違反してたらダメな事がわかった。
- ・この不景気で元さんみたいな人がいるのかなあ、と思った。